

第140回 知的コミュニティ基盤研究センター研究談話会 図書館情報学とデジタル・ヒューマニティーズ — デジタルに転換する時代へ共に歩みだす —

日時：2017年2月21日（火）13:45 — 15:00

会場：筑波大学 筑波キャンパス 春日エリア 情報メディアユニオン3F 共同研究会議室1



講演者：Heike Neuroth 氏

ポツダム専門単科大学 情報学部図書館情報学科 教授

※ 本講演はドイツ語で行いますが、日本語の逐次通訳が付きます。

概要：

科学や社会の実証的研究とデジタル化が進むにつれて、デジタル技術を多用する人文学をはじめとした各分野で、新たな統合のシナリオが生まれている。何百万という書籍のメタデータなど、情報の専門家は常に膨大な量の情報を扱ってきたが、今日では文学研究、考古学、美術史など、あらゆる人文学の分野で、研究の方法や過程にデジタル技術を取り入れている。例えば文学研究では、大量のデジタル化された文献を、事前に指定された基準に沿って研究し、特定のアルゴリズムに基づき分析することが出来る。「普通」の人が一生をかけて読める書籍はせいぜい3000冊ほどだろうが、量的な処理が可能になった今日の文学研究においては、比べ物にならないほど大きな情報の集積を研究対象とすることが出来る。その基盤となるのは、書籍や彫刻、出土品などのデジタル資料化により世界中の研究者に閲覧、参照、研究を可能にする、デジタル化の進行である。しかし、このためには、専門家によるデジタル資料の評価、管理が必要となる。「構造化」され、基準に基づき示されることによって、デジタル資料は更なる知識プロセスのための基盤をなす。ここに、情報学、図書館情報学は、ゲートキーパーとして文化・学術的財産を保存してきた長い歴史を生かし、役立てることが出来る。

本講演では、アナログからデジタルへ変換する時代の、デジタル・ヒューマニティーズと情報学の境界における国内外の展開や議論を追う。

略歴：

ハイケ・ノイロートは2015年4月からポツダム専門単科大学の情報学部図書館情報学科の教授として、研究データの管理やデジタル・ヒューマニティーズの研究に従事している。それ以前は、ニーダーザクセン州立図書館兼ゲッティンゲン大学図書館の研究開発部門で10年以上にわたり主任を務め、マックス・プランク研究所のマックス・プランク・デジタル図書館ではデジタル・ヒューマニティーズ分野の客員研究員として研究を進めた。また、人文学をはじめとした各分野の研究者と共に、デジタル・ヒューマニティーズの分野で長期的なプロジェクトを立ち上げ、研究基盤の構想を進め、実際に構築した。

参加費・事前申込み不要。

学生・教職員、学内外問わず、
どなたでもどうぞお気軽にご参
加下さい。

主催：筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター
<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/index.html>

東京ドイツ文化センター

<https://www.goethe.de/ins/jp/ja/sta/tok.html>

お問い合わせ：

メール kc-office@ml.cc.tsukuba.ac.jp

電話 029-859-1524（学内：内線81524）